

\*\*\*\*\* 2011.3.23 発行\*\*\*\*\*

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付  
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269  
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>  
E-mail [japan-malawi@auone.jp](mailto:japan-malawi@auone.jp)

### 【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)  
人口：1530 万人 (2009 年世界銀行)、首都：リロングウェ  
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語  
政体：共和制、大統領：ピング・ワ・ムタリカ  
為替レート：US\$1 = MK 150.398 (3 月 6 日現在)  
MK 1 = 0.54 円(3月6日現在)

### 【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数:293人(3月6日現在)



### ニュース マラウイ国旗変更 (続報)

前号で既報のとおり、マラウイの国旗は2010年7月29日にピング・ワ・ムタリカ大統領が国会を通過した国旗変更法案に同意したことにより変更された。本件につき、当会から駐日マラウイ大使館へ新国旗の持つ意味などを照会していたところ、次のような回答があった。

マラウイ国旗は、過去46年間にわたる発展と変革を表すために変更された。新国旗の意味は、

赤：アフリカの自由のために戦った殉教者の血

黒：アフリカ大陸の人々

緑：マラウイの国土と天然資源

白く輝く全円の太陽：

マラウイ人の親密性、国内で広く見られる平和、現在享受している繁栄を表す。また、成し遂げる国、固く決心し独立独行する人々、完全な自由と平和の達成、全てのマラウイ人の繁栄の約束を表す。



▲旧国旗

▲新国旗

新旧両国旗とも赤・黒・緑の横縞があるのは同じだが、その順序が旧国旗では上から黒・赤・緑であるのに対して、新国旗では赤・黒・緑である。また、旧国旗では国の「夜明け」を表すとされた半円の輝く太陽が、新国旗では既に「夜明け」の時代は終わり、「白く輝く全円の太陽」とすることで、これまでの発展とこれからの国作りの決意を込めたものと考えられる。

### ニュース マラウイへの最近のODA案件

(1) 2011年1月26日、首都リロングウェ市において、寒川富士夫駐マラウイ国大使とケン・カンドド財務大臣 (The Honourable Ken Kandodo, Minister of Finance) との間で4.26億円を限度とする無償資金協力「地下水開発計画」に関する書簡の交換が行われた。

この協力は、対象地域にハンドポンプ付き深井戸給水施設を120箇所整備するものである。これにより、対象地域において安全な水を利用できる人口は約28,700人増加し、下痢、赤痢等の疾病が減少することが期待される。

(2) 上記と同時に7.78億円を限度とする無償資金協力「カムズ国際空港航空航法システム改修計画」に関する書簡の交換も行われた。

内陸国であるマラウイにとって、航空輸送は外国との交易・交通上極めて重要であるが、本計画で改修対象の同空港の航空保安関連機材は、その大部分が1982年の開港時に設置されたもので、老朽化等が問題となっている。この協力により、航空管制システム等が改善され、航空機の安全な運航が確保される。

(外務省発表ニュースより)

### イベント グローバルフェスタ2010

2010年10月2・3日(土・日)の両日、東京・日比谷公園で「グローバルフェスタ2010」が開かれました。これは2004年まで「国際協力フェスティバル」と言われていた催しで、2005年から名称が変更されました。今回で20回目となりますが、日本マラウイ協会は、94年の初参加から17回連続の参加となりました。

当日は割り当てられたテントに、マラウイ国内の写真パネルや、当会の活動を紹介するパネルを展示しました。また、当会編集の国情紹介誌「マラウイ The WarmHeart of Africa第2版」や旅行ガイドブック「暖かきアフリカの心 - 湖とサバンナの大地へ」、「チェワ辞典改訂版」および当会の「設立25周年記念誌」、青年海外協力隊(JOCV) マラウイ派遣OB/OGが持ち帰った民芸品、さらに「マラウイ母の会」の皆さんのご協力により、手作りのチテンジバッグも販売しました。このチテンジバッグの売れ行きは来場した若い女性達に好評で、非常に多くの収益がありました。

また、直近までJICAマラウイ事務所ボランティア調整員を務められていた関 香織さんがテントに詰めてくださり、訪れた現協力隊マラウイ



▲当会テント前で母の会メンバーと

派遣隊員のご家族や、これから赴任する隊員候補生の方々、マラウイに興味のある一般の方々に最新のマラウイ情報を提供し、大変喜ばれました。



▲販売したチテンジバッグの一例

当会では今後ともこうした機会を積極的に捉え、マラウイのPRに努めていきたいと考えています。

## レポート 調整員業務を終えて

元JICAマラウイ事務所  
ボランティア調整員  
佐竹 靖

マラウイのボランティア派遣は今年8月で40周年を迎えます。JICAマラウイ事務所では様々なイベントの企画が始まっており、イベント開催への期待感が日に日に高まっています。イベント開催に際してはマラウイボランティアOB、OGの皆さんにも古い写真、原稿、メッセージなどを依頼するかとありますが、そのときはご協力よろしくお願いします。

マラウイには過去40年間に青年海外協力隊員、シニア海外ボランティア合わせて1500名以上のボランティアが派遣されました。ボランティアの活動の跡は国のいたるところで感じ取れます。特に、省庁の高級官僚の多くが過去にボランティアとの接点を持っているのは驚きで、話題が過去のボランティアのことに触れると高い確率で「過去、日本人の誰々さんと一緒に仕事をした」「私の先生は日本人だった」などと彼等の日本人ボランティアとの経験を披露してくれます。それが親日的な態度に現れ、JICAの事業を実施する上でも潤滑油的な作用をもたらしているようです。過去40年間のボランティアの貢献ははっきり目に見えませんが、マラウイの人々の心の中にしっかりと根付いていることは間違いありません。先輩たちの努力が報われていることを強く感じました。

しかし、これからのボランティア事業を考えると、事業仕分けで指摘された点について応えることが期待されており、目に見える成果も必要になってきます。これまで実績があるマラウイの人々個々への影響を発展させて、組織・地域への影響が残るような事業展開が求められています。それには、配属先の能力開発という過去にボランティアが力を入れていた活動形態に異なった手法を使うことが必要かと思えます。

配属先がサービスの提供者であるなら、サービスを受ける一般の人々はクライアントです。クライアントがサービスを選択する能力を高めたとき、サービスの提供者はクライアントの動向から大きな影響を受けます。クライアントからの注文が強くなればサービスの提供者も変わらざるを得ません。したがって、各配属先が対象とする一般

の人々の意識変革が重要で、配属先の側に立って一般の人を眺めることより、一般の人々の目線で配属先の業務を厳しく見るのが大事になります。派遣されるボランティアがもっと一般の人々の声を大きくする方向で活動を進めることが、間接的に配属先組織の能力向上につながり、地域・組織に影響を残すことにもなるはずで

5日分の食糧を持ってアメリカの大学に行くために、裸足でマラウイから歩き出した少年や、誰の助けも借りず自力で風力発電を始めた少年など、マラウイにも夢を持ち、夢を実現するために大きな努力をする普通の人々がいます。もっともっと、そのような人々が現れ成功することが、今後の発展の大きな推進力になります。このような人々を励ますような活動がボランティアに出来ればマラウイも大きく変わるものと思います。

たった2年間ですが、マラウイにかかわり少しでもマラウイのために働いた私にとって、これからもマラウイのことは気になるため、皆さんとともに今後も応援したいと思います。

最後になりましたが、日本マラウイ協会の皆様のご支援を心から感謝しております。これからも微力ではありますが、協力を惜しまないつもりです。何かあれば声をおかけください。ありがとうございました。

## 投稿

### JICA アフリカ合宿ワークショップに参加

平成14年度3次隊  
コンピュータ技術 近岡 潔

「JICA アフリカ (感染症分野) 合宿ワークショップ」が2010年12月11・12日(土・日)の両日、北海道函館市近くの大沼国定公園近辺で行われました。JICAから一般の参加募集があり、参加条件が「保健医療分野あるいはアフリカへの国際協力分野で実務経験もしくは研究経験のある方」とありました。私は青年海外協力隊でマラウイでの活動経験がありましたので、応募し参加しました。他にも協力隊アフリカ隊員経験者の参加者がいるかと思っておりましたが、私だけで他は殆どが医

療関係者でした。

アフリカ各地から感染症分野に関わる研修員20名(エジプト1名、エチオピア2名、ガーナ3名、ザンビア3名、ジンバブエ1名、セシェル1名、ナイジェリア1名、マラウイ4名、南アフリカ2名、リベリア2名)が医療関連について札幌・函館を中心に学びにやって来て、このワークショップはその一環として行われました。研修員たちは既に札幌で1週間研修を行った後、函館の方へやって来たとのことでした。マラウイから来た4名はそれぞれBalaka、Dowa、Mzimba、Nenoから来ました。

初日はまずアイスブレイクと自己紹介が行われました。マラウイ+ザンビアで7名いることからチェワ語が通じると思いチェワ語で自己紹介を試みたらアフリカの皆さんに思いのほか好評で、すぐに私のことを覚えてくれました。また昼休みにマラウイの歌を2、3歌ってみましたところすっかり気に入ってくれました。午後最初にはいくつかの国の研修員の方々から、それぞれの国の感染症に関する現状報告がされました。やはりアフリカといえば改善は見られますがHIVとマラリアが問題のようです。その後、アフリカからの研修員と日本からの参加組が一緒になっていくつかの班に分かれ、アフリカと日本の医療の良い点悪い点を話し合い共通点などをまとめました。

その夜は懇親会が催され研修員の皆さんと親交を深めました。ゲームをしたり歓談したりだったので、参加者の中から少林寺の形の披露やアフリカの歌の披露が行われ、私も強制的にマラウイアンと一緒に歌の披露をさせられてしまいました。そのあと同室になったマラウイアンと一緒に露天風呂に入ったり、マラウイの現状について話したりしました。私がマラウイにいたときより人口がかなり増えているといったこと、物価(対クワチャ)が2~3倍になっていることなどが話されました。

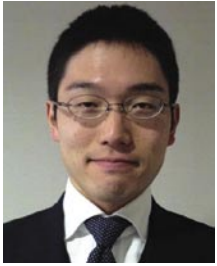
翌日はそれぞれの班から昨日まとめたものの発表がされ、記念撮影をして帰路に付きました。その後研修員たちは市立函館病院などの医療機関を巡り研修を行ない、16日(木)に成果発表会を行って修了証を受け取り帰国しました。



▲終了時の記念写真

### 投稿 派遣にあたり思うこと

平成 23 年度 2 次隊 候補生  
コンピュータ技術 染 未知輝



初めまして。染 未知輝 (そめ みちき) と申します。この度、平成 23 年度 2 次隊でボランティア市役所へ派遣される予定となりました。職種はコンピュータ技術でして、市役所のコンピュータシステムやパソコン、ホームページに関わるお仕事させていただきます。マラウイへの派遣準備を進める中で日本マラウイ協会のことを知り、お話を伺う中で今回の原稿のお話を頂き、書かせていただくことにいたしました。

私は大学院修了後ソフトウェア会社に就職し、5年ほどSE・プログラマーとしてコンピュータシステムの開発、保守、運用に携わってきました。就職当初は海外で働くことなど全く考えていなかった私が青年海外協力隊に応募しようと思ったのは、自分の将来に対する危機感からです。私の

いた会社は先輩がよく面倒を見てくださるいい会社だと思っています。しかし、あるときに「このままでは歳をとっても先輩がいないと仕事ができない人間になるのではないかと」考えることができました。自分の過去を振り返って思うのは、必死で仕事をした、成長したと感じられるときは、自分でどうにかしようとしていたときでした。力をつけないとやっていけなくなる、そのためには必死になって仕事をしなければいけない。青年海外協力隊で任地に派遣されると、一人で仕事を進めなければいけません。逃げたくなっても逃げられません。自分にとっては絶好の環境に思えました。

そんなことを思って選考を受け、幸運にも合格することができました。マラウイを希望したわけではありませんが、アフリカに行きたいとは思っていたので自分の希望が叶いました。一方で期待される役割を知ったときは不安になりました。ほとんどが自分の経験のないものだったからです。具体的には、スタッフへの技術指導、市庁舎内ネットワークの構築、人事管理システムの構築、市庁舎内で使用するコンピュータのメンテナンス、市役所のホームページの作成及び更新ですが、仕事で経験のあるものは人事管理システムの構築だけです。これについても知らないことが少なくありません。

今は派遣前にどれだけ準備ができるかが勝負だ

と思っています。英語やコンピュータなどについての学習を自分で行うことはもちろんのこと、知っている人に教えを乞う、知っている方を紹介していただくなどしています。当初の狙い通り自分を追い込めています。後は私が逃げずに向き合い続けるだけです。

任地ではカウンターパートの方々と徹底的に会話をしようと思っています。期待される役割の一つに技術指導がありますが、一方的に伝えるだけでなく、相手の方のお話を聞く、相手の方の考え方を否定しないことを大切にしていきます。また、結果だけを伝えたり、自分ですべて作業を行ってしまうのではなく、一緒に仕事をし、私が何をどのように考えた結果、今の作業をしているのかということを会話しながら進めていきます。私の拙い英語ではお互いイライラすることも多いと思いますが、現場ではこのようなきれいなごとは通用しないかもしれませんが、手を変え品を変え挑戦し続けます。

私の派遣先は新規です。私の働きが日本や日本人の評価に直結すると思うと身が引き締まります。少なくともカウンターパートの方の期待を裏切らないように、そして今後も日本人と一緒に仕事をしたいと言っていたような関係を作れる仕事をします。

### マラウイ関連の本 紹介コーナー

昭和 49 年度 2 次隊 前期組  
看護師 三浦 洋子

■ 風をつかまえた少年  
文芸春秋  
ウィリアム・カムクワンバ  
ブライアン・ミラー (共同執筆)

最近読んだ本の内容の一部を紹介します。

■ キリマンジャロの雪が消えていく  
岩波新書 石 弘之

マラウイ湖で奇妙な網で魚をしていた。それは蚊帳だった。スネアと呼ばれる輪状のワナをつくり動物を捕まえていた。それは電線だった。援助の裏の裏を知っているから、このような風景が胸にザクリとくる。キリマンジャロの雪や環境問題が主な内容であるが、援助のあり方なども述べられている。「マラウイの奇跡」と言っていたかは別として 2005 年の干ばつ後のマラウイの農民が元気になった! という話を読んでほっとする。

■ 傲慢な援助  
東洋経済新報社 ウィリアム・イースタリー

シャロン・ストーン (映画女優) が蚊帳を送る募金を呼びかけた。しかしその後、蚊帳は闇市場に回り漁網に転用されたり、時に花嫁のベールにもなっていた。マラウイでは妊婦検診を行う診療所で蚊帳を販売する「マラウイ・モデル」というある特定の問題解決に有効な方法で人々に活用されていると。「白人の責務」と言う言葉が頻りに使われたり、今日の援助の盲点を諸国の例をあげて書かれている。翻訳であるがよくわかる本である。著者が秋葉原に見えた時の見る目が面白い。

■ 世界で働く子どもたち もっと知りたい  
文芸社 末光 有子

これは絵本。10ヶ国の子供の働く様子を紹介しているが、マラウイが一番先に書かれている。「魚を売ることも・学校に行きたい」と紹介されている。

刊行を機に来日した新聞記事を見てすぐ書店に走った。カスングの東ウィンベトと言う村の出身。現在 23 歳、アメリカの大学で学んでいるが、中学校を中退する話や未だ魔術師が支配していた当時を紹介している。ガラクタを集めて風力発電機を作った経緯が書かれている。著者はもちろん、この本に登場する全てのマラウイ人に声援を送りたい。発端は地元紙を見た NGO のブログに書かれて広まった。池上彰の解説も読める。



▲「風をつかまえた少年」の表紙

■ FRIENDSHIP Malawi & Japan  
Montofort Media 野呂 元良

これは元マラウイ日本国大使野呂元良 大使のマラウイでのスピーチ集である。また大使の詩、マラウイ人の詩人の詩も記載されている。(私は今もチェワ語辞書と英語辞書を交互に広げ感慨にふける)



▲ マラウイのページ

## 最近のマラウイ関係テレビ/ラジオ番組/記事

## (1) 2010.10.23 日本テレビ系列

19:56～20:54の一部(約3分)

世界一受けたい授業  
「こんなに違う? 驚きの歩行スピード」

## (2) 2011.1.7 毎日新聞朝刊

独学で風力発電機を作ったマラウイ人大学生

## (3) 2011.2.6 テレビ東京系列

19:00～21:48の一部(約50分)

池上彰の世界を見に行く(上記風力発電機関連)

## (4) 2011.2.25 日本テレビ系列

19:00～20:54の一部(約10分)

金曜スーパープライム  
「世界一歩くのが遅いマラウイに潜入」

## 日本マラウイ協会 2010年9月～2011年2月 主な活動内容

(1) 2010.9.22	KWACHA第44号発行	(5) 2010.12.15	12月定例会、納会
(2) 2010.10.2～3	グローバルフェスタ2010出展 (1～2面記事参照)	(6) 2011.1.20	1月定例会
(3) 2010.10.20	10月定例会	(7) 2011.2.23	2月定例会
(4) 2010.11.17	11月定例会		



## 日本マラウイ協会情報



### ■ 訃報

昭和58年2月の当会設立時の理事であった堀添勝身氏(元 財団法人ユースワーカー能力協会)がご逝去されました。また、岡村真司氏(昭和55年度4次隊 理数科教師)が1月1日にご逝去されました。謹んでお二人のご冥福をお祈りします。

### ■ 第29回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は第29回通常総会を別紙の通り開催します。会員の皆様は同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

### ■ JICA地球ひろば情報

JICA地球ひろばで2011年3月29日(火)～5月1日(日)の期間、4月 月間国別特集「マラウイ共和国」が開催されます。駐日マラウイ共和国大使館と当会が協力し、国別展示として、地球ひろば1階体験ゾーンの一部で、マラウイの特産物、民芸品、民族衣装、関連資料やパネルなどが展示されます。また、マラウイに関するセミナーが開催される予定です。詳しいセミナーの情報は、近日中に、地球ひろばの以下のサイトに掲載されます。

<http://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>

### ■ インターネットでラジオ番組

インターネットでマラウイのラジオ番組を聞くことができます。ZODIAK ONLINEというサイト

<http://www.zodiakmalawi.com>

で画面右上の「LISTEN LIVE」と書かれたボタンをクリックするとチェワ語のトークやマラウイの音楽が流れてきます。このラジオ局はリロングウェで95.1MHzで放送しているZodiak Broadcasting StationというFM局。マイクロソフトのSilverlightというソフトのインストールが必要ですが、入ってなければダウンロードを促す画面が出てきます。また、画面の左側ではマラウイのニュースも読めます。

### ■ KWACHA バックナンバー

当会は2011年2月26日に設立28周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第45号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧下さい。: <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

### ■ 日本マラウイ協会の刊行物

(1) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版(97年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5版108ページ 1部 1,200円(送料210円)

(2) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版(94年7月発行)A4版40ページ 1部 1,000円(送料210円)

送料は「ゆうメール(旧冊子小包郵便物)」扱いで表示しています。上記2種類を1冊ずつご注文の場合は次のとおりです。

$$(1)+(2) = 290円$$

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金される場合は、事前に必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」)をメールまたはFAXでご連絡ください。

### ■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

### ■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(通常はJICA広尾地球ひろば 会議室)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

### ■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページからダウンロード(<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>)し、各項記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費(個人正会員の場合3,000円)は、E-mailまたはFAXでご連絡の上、お送りください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: [japan-malawi@auone.jp](mailto:japan-malawi@auone.jp)

(1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店

普通口座 0255739

口座名義: 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキョウ店)

当座預金口座 0013125

口座名義: 日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号: 00190-7-13125)